

## 5 学生の受け入れ

### 進捗状況報告

2009年度より国際政策に関して英語のみで課程修了に必要なすべての単位を習得可能なカリキュラムを設定した。これにあわせて2009年度にはインドネシアからの留学生受け入れを予定している。本研究科では、これまで多様なバックグラウンドを持つ学生を確保するために多数の留学生を受け入れてきた。しかし、総合政策学部独自の奨学金制度である「総合政策学部外国人留学生奨学金」（総合政策学部開設時の三田市補助金およびその運用果実が原資）は、原資の減少により2006年度より支給額を減額せざるを得ず、また2010年度以降の学部入学生にはもはや支給できない状況に至っている。その結果、留学生の実質負担が増え（たとえば経済学部と比較すると4年間で90万円弱の負担増）、これまで総合政策学部を志望していた留学生が上ヶ原キャンパスの既存学部へ志望を変更する可能性が高い。上ヶ原キャンパスの既存学部と授業料負担が実質的に同等となるような措置を講ずる必要があるが、これは総合政策学部・研究科が単独で取り組むべき課題ではなく、留学生への奨学金支給に関する全学的な取り組みが求められている。

### 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

総合政策研究科では、英語のみで修了可能なコースを「国際開発戦略領域」の中に設定しており、その延長上に「国際開発戦略リサーチ・センター」を位置づけている。

### 学内第三者評価

2009年度より英語のみで課程修了する制度の導入は優れた試みである。当該制度を利用する生徒の受験方法に関する記述が望まれる。留学生への奨学金支給については、記述にあるとおり、全学的に検討されることが求められている。

なお、2007年度の進捗状況報告にある「国際開発戦略」以外の研究領域についての英語での授業の割合、また、「国際開発戦略リサーチ・センター」（2003年度目的設定・2005年設置）との関係について明らかにされることが望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。  
英語で履修できるカリキュラムと留学生の受け入れは密接に関連している重要な課題であり、今後、留学生受け入れの増加に向けて、様々な視点からの検討が求められる。